

2020年10月11日（日）聖霊降臨後第19主日

## 銀座教会 主日家庭礼拝

**礼拝招詞** 「目覚めた人々は大空の光のように輝き 多くの者の救いとなった人々は  
とこしえに星と輝く。」 ダニエル書12章3節

### 主の祈り

**使徒信条** 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、  
イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、  
処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、  
全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、  
生ける者と死ねる者とを審きたまわん。  
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、  
身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。 アーメン。

**讚美歌** 355 主を仰ぎ見れば

**聖書** ローマの信徒への手紙5章1～11節

1 このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、2 このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。3 そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、4 忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。5 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。6 実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。7 正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。8 しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。9 それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。10 敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。11 それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。

### 牧会祈禱

天の父なる神さま。あなたが今日を生きる信仰をお与えくださり、御前に立つことができますことを感謝いたします。あなたが私たちのために祈っておられることを忘れていたことを御前に懺悔いたします。新しい主の日、神を仰ぎ、あなたの御名を呼ぶことが出来ました。あなたに顧みていただいていること感謝いたします。

本日は、ヨーロッパにおいて宣教師として遣わされている川上真咲牧師をお迎えすることが出来ました。御言葉の交わりを感謝いたします。川上牧師夫妻の伝道牧会が主の栄光を現

されますようにお祈りいたします。神の家族の課題はあなたがすべてをご存じです。最善の道をお与えください。今日は、神学校日です。日本基督教団立東京神学大学と5つの認可神学校の教師養成の上に聖霊の助けと導きを祈ります。教会学校の子どもの学びと友情をお支えください。コロナ禍の中、医療従事者の上に主の守りと導きを祈ります。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

## 説教 「揺るがない希望」 ブリュッセル日本語プロテスタント教会牧師 川上真咲

日本に戻って来て、あまり良い習慣とは言えませんがテレビを見る時間が増えてしまいました。一番気になるのはやはりニュース番組です。海外にいても日本の情報をインターネットで得ることは可能ですが、リアルタイムに日本語で聞くことが出来るのはやはり魅力です。

一番多い話題は何とんでも新型コロナウイルスのことです。一日の感染者数、どこでクラスターが発生したのか、ワクチンは出来るのか、経済はどうなるのか、分からないことだらけです。しかもそれが世界レベルで起こっています。先行きの見えない不安が今までになく大きく世界を覆っています。私たちはキリスト者として、この大きな不安の中をどう生きていくべきなのでしょう。

今日与えられている御言葉の最初に「わたしたちは…神との間に平和を得て」と書かれています。神さまとの間が平和であるということは、私たちは神さまに何もかもをすっかりお任せできる状態である、ということです。平和でない相手には何かを委ねることは出来ません。私たちの人生が、神さまという全知全能のお方の御手の中で完全に守られているということ、これ以上安心できる確かなことは他にありません。

この平和は、私たちが自分の力では決して得ることが出来ないものです。「主イエス・キリストによって」とはっきり記されております。主イエスさまが私たちの罪を背負って十字架にかかれ、死なれ、三日目によみがえられた、このことによってだけなのです。一方的に神さまからいただく平和を持つ者が3~5節の言葉を言うことができるのです。「わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません。」

3月17日にベルギーはロックダウン（都市封鎖）に入り、原則として買い物と病院、健康のために散歩に出ること以外の外出が出来なくなりました。スーパーマーケットに入る人数と時間は制限され、バスも一台に数人しか乗れませんでした。個人事業者への経済支援は多くはなかったようで、ロックダウン明けには残念ながらいくつかのお店が閉まっておりました。明けたとは言え、未だに制限は厳しく、窮屈な思いをしている人が少なくありません。抗議のデモも起こり、我慢しきれなくなった人たちが禁止の大人数パーティーを開いて検挙され、罰金250ユーロ（約3万円）を課されたというニュースも聞かれました。しかし同時に、どこか明るい空気も漂っています。医療従事者や、公共交通機関の運転手など、大変な中で休まず働く人々を応援する、前向きな行動が起こりました。ウイルス流行初期、アジア人が一括りに中国人と見なされ、風当たりが強くなったことも残念ながら事実です。しかしそれを諷める言動も一緒に起こります。トラブルはゼロではありません。しかしそれ以上に、

それを乗り越えよう、みんなで頑張ろうという空気が濃く「何とかなるさ」というたくましさを感じさせられます。どこからこの明るさは出てくるのでしょうか。

ベルギーでは、現時点でコロナウイルスの感染者は10万人を超え、死者は1万人弱と計上されております。総人口1,100万人です。日本でも「ベルギーではコロナウイルスによる死者が世界最悪」と報道されたらしいことも聞いております。確かに他のヨーロッパ諸国と比較すると、この死者の人数は多いです。ただ、この死者数の内、およそ半分はコロナウイルス感染しているという、正式な診断は下されていません。ベルギーでは、コロナ流行が始まってすぐに、政府が一つの発表をいたしました。「医療崩壊を防ぐために、老人ホームに入居している方に発熱等の症状が出た場合は、病院ではなくそのままホームで診るようにしてほしい」苦渋の決断だったと思います。全ての人々が病院に駆け込むことが出来るのが理想です。しかしそれが出来ない現実の前では何らかの決断を下さなくてはなりません。ホーム入居者で具合が悪くなった方々は、PCR検査を受けることが出来ないままにお亡くなりになりました。政府は潔く、この方々は診断は下せなかったが、コロナウイルスによる死者であるとして発表しております。この政府の判断には賛否両論ありますが、全てを明らかにしているという点では評価できるのではないのでしょうか。

もう一つの例として、スウェーデンを挙げさせていただきます。この国は唯一「集団免疫」という方法を最後までやり遂げた国であると言われております。ロックダウンなど行動を制限せず、あえて感染して免疫を付けた人を増やしてウイルスを抑え込む方法です。効果が見えてきたと言われておりますが、当然ながら感染する人は多く、亡くなる人も多くいました。やはり賛否両論あるやり方だったと言えます。しかし、完璧な方法などというものは今のところ、どこにもないのが事実であり、試行錯誤しながら皆必死に対応に追われているのが現実です。

この2つの例は、西洋の死生観を反映しているというコメントを聞いたことがあります。しかしそのコメントに引かかるものがありました。曰く「西洋人は、どうせ人はいつか死ぬと思っているのですよ。だから高齢者や重症者が死ぬことに対して抵抗が少ない」というようなことでした。確かに人はコロナウイルスに罹らずともいつか死を迎えます。いずれ迎えるその死を、人々はどのように受け入れるのでしょうか。

3年半、ヨーロッパに暮らしていて、私は日本人と西洋人の宗教観の違いがあまりに大きいのに驚きました。ベルギーはカトリック国であり、町のあちらこちらにカトリック教会があります。これら教会の装飾はいずれも見事なものばかりです。立派な外観、ステンドグラスや絵画で描かれている聖書物語や聖人の姿、十字架に掛かったイエスさまの像や母マリアの像…それら全てが示したいのは「神さまはいかに偉大で素晴らしい方であるか」です。ミサにおける壮大なオルガンの響き、時にお香が焚かれ、そして聖体拝領でイエスさまの体をあらわすパンをいただきます。教会の中にいるだけで、五感で神さまの偉大さを、いやというほど味わうことができるのです。

揺るぎのない神さまの偉大さを惜しみなく発信するキリスト教を土台とした文化に育った西洋人は、神さまと自分との関係が実にはっきりしております。ベルギーは国民の75%がカトリック信者であると公表されております。しかし実際のところは、毎週教会に行き、お祈

りし、聖書を読むいわゆる「アクティブなクリスチャン」と言われる人は1%程度だそうです。日本とあまり変わりません。しかしそうだとすると、ベルギーの人々からは「神さまは絶対なお方」という感覚がしっかりと育っているように感じられます。もちろん聖霊の助けもあるでしょうが、知らず知らずのうちに身に沁みついていて、もはや理屈ではなく神さまが主、自分たちは従、と捉えることが出来ているように思います。そして、死は終わりではなく、神の国、天国の希望があります。理屈抜きにこれらの事柄を、いわば「DNA レベル」に持っていることに、日本人としては少々羨ましくあります。願わくは、その神さまとの関係がきちんとイエスさまの十字架という仲立ち故に許されているのだということもきちんと知ってもらいたいと思います。私たちの生きる道は楽ではありません。問題は次々と押し寄せ、常に死と隣り合わせです。たとえコロナウイルスでなくても、確かに人はいつか死ぬのです。そのような中で、私たちは神さまとの平和を得ております。全てが神さまの御手の内にあります。私たちの人生、命は神さまがしっかりと守ってくださっているのです。そして、地上の命が終わっても、その先に神さまと生きる本当の命があります。これらを信じる事が出来る者は、強く、また幸いです。この強さは、厳しい今日の世界情勢において、揺るぐことのない希望として証しされるのです。この希望をまだ知らずにいる方々に届け続けられるよう、私たちは希望の源である主を礼拝し続けましょう。私たちのささげる礼拝を通して、イエス・キリストの栄光と主なる神さまの愛があらわされますよう、祈ります。

#### 祈 禱(各自、自由にお祈りください)

**祈禱課題** ウイルスの脅威の中にあって世界に平和と平安をお与えください  
ブリュッセル日本語プロテスタント教会の川上牧師夫妻のお働きのために  
東京神学大学はじめ各神学校に献身者が与えられますように  
サムエル会、教会学校の生徒たちに信仰が与えられますように  
医療従事者の健康と使命が主の守りの中にありますように

**讃美歌** 217 あまつましみず

**献 金**

**頌 栄** 544

**祝 禱** 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、  
あなたがた一同と共にあるように。 アーメン

**説教者** 川上 真咲 (かわかみ まさき) 宣教師の紹介

埼玉県出身、浦和福音自由教会にて洗礼

2001年 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書神学校卒業

2012年 日本基督教団補教師試験合格

2015年 同教団正教師試験合格 按手を受ける

2013年 同教団飯田吾妻町教会伝道師及び副牧師

2017年～ ブリュッセル日本語プロテスタント教会牧師